

一問一答

質問者	掲載ページ	質問事項
吉村 範明 議員	10ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 幼児教育・保育の無償化について ▶ 医療従事者が開業や事業承継しやすい環境づくりに向けて ▶ 産み育てやすい環境づくりのために
高野 哲郎 議員	11ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「働き方改革」と「人材不足」について
片山瞬次郎 議員	11ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ フレイル(老人性虚弱)予防型の取り組みについて ▶ 骨粗しょう症とロコモシンドロームについて ▶ 災害時の応援の受入体制の構築について ▶ 地区防災計画の策定とマイ・タイムライン等について ▶ 母子手帳の電子化について

一般質問とは、提出議案や報告に対する質疑、市政一般に対する質問を市長や執行機関側に行うものです。質問の方法は一括方式と一問一答方式があり、通告の際に議員が選択することになっています。

【質問の方法】

一括方式 通告したすべての質問をまとめて行う方式。質問時間は、質問と答弁を合わせて50分以内。再質問は2回まで。

一問一答方式 通告の項目順に質問を一問一答で行う方式。質問時間は、質問と答弁を合わせて50分以内。質問回数の制限はない。



川崎 順次(かわさきじゅんじ)議員

ひびくやちうまなびへの疑問を問う!!

◆今、行政に求められているものは

Q 虐待について、「もうお願いゆるして」と切なる思いとは逆に虐待で死亡させた事件等、全国で児童虐待が絶えない。本市でも令和元年6月現在で193件あり増加傾向にある。今後どのように対応していくのか。

A 市では1月に子ども家庭総合支援拠点を設置。また、虐待相談について、金沢弁護士会と協定を県内で初めて締結する。

Q 不登校、いじめの対応について、一番の要因は何なのか。各学校でどのような取り組みを指導しているのか。

A 積極的に生徒指導を推進することを通し、学校全体で子どもたちを見守り、必要な支援を行う体制を大事にしている。不登校のきっかけは、学校生活や本人の問題に起因するもの等、さまざまに要因は特定できない。

Q 子育て支援について、さらに踏み込んだ支援が重要。今後の対策は。

A 第2期小松子ども・子育て支援事業計画を今年度末に策

定予定。市内47施設における子ども・子育てあんしんネットによる相談支援の充実を図る。

Q 人生100年時代に向けた福祉の充実について、認知症高齢者が増えている。住民の暮らしを守るセーフティネットをいかに推し進めていくか。

A これまで取り組んできた施策をより強化し、市民団体等と連携して福祉の充実に努めていく。

Q 来年度の子育て福祉予算の取り組みについて、予算の充実を図るべきである。

A 予算は毎年増額している。今後、20年ビジョンの考え方を踏まえ、施策を展開していきたい。

◆圏域構想について

Q 2045年の市の人口は8万8千人。国は新たな行政単位

として圏域構想を示した。地方行政の課題と対策にどう取り組み、市は今後どのような圏域構想を考え、課題解決に向け取り組んでいくのか。

A 本市は行財政改革に取り組んできた。今後は民間との連携をどうするかが大事。新たな発想でこれからの連携を進めていきたい。



南藤 陽一(なんとう よういち)議員

一括質問

持続可能な地域交通の実現に向けて

◆ 地域との協働による移動手段の確保と持続的な体制づくりについて

Q 月津校下でスタートした「乗合ワゴン」の今後のサポート内容は。

A 運行に係る財政的支援を行うとともに、高齢者等が外出しなくなる環境づくり等について、公立小松大学の協力をいただきながらサポートしていく。

Q 日野自動車等との実証実験のノウハウを、今後、本市の地域交通にどのように活用するのか。

A 矢田野地区(生活サポートバス)について、新しい移動手段の実現可能性を探る。鉄工団地(通勤シャトルバス)について、オンデマンド型の新しい通勤手段の実現可能性を探る。実証実験で得られたノウハウを他の地域での取り組みに活用していく。

Q 国土交通省では、自家用有償旅客運送の円滑化を示しているが、地域との共創による交通サービスを維持するために、月津校下でスタートした乗り合いワゴン事業を、自家用有償旅客運送事業に向けて後押ししてはどうか。

A 地域が主体となったコミュニティビジネス創出のため、有償運送や運行主体の法人化への取り組みについて、こまつまちづくり交流センターと連携し、サポートを行っていく。

◆ 暮らしを支えるバス路線の維持について

Q 現在、令和2年度からのコミュニティバスの運行を行う事業者の募集を行っているが、選定についてはどのような観点で行っているのか。

A 運行の安全性の確保、利用促進策等について、企画提案を求め、現在のサービスが維持できるような最適な事業者を選定したい。

◆ 北陸新幹線小松開業を見据えた交通ネットワークの充実について

Q A-1や自動運転、Maasといった新たな技術やサービスの進歩が著しい今、本市の新たな交通ビジョンを描く時期と考えるが。

A A-1など新技術の活用も含め、国が推進する交通マスタープランの策定について検討を進めていく。



橋本 米子(はしもと よねこ)議員

一括質問

小松市会計年度任用職員制度について

◆ 来年4月から施行される小松市会計年度任用職員制度について

Q これまでの市の集中改革プランなどで正規職員が減らされる一方で臨時・嘱託職員が増えている。全職員数に占める非正規率を問う。

A 一般職(正規)1,141人に対して、臨時職員が約260人、嘱託職員が約180人で合わせて非正規の職員は440人。全職員に締める割合は約28%である。

Q 会計年度任用職員制度は会計年度ごとの任用で非正規雇用の固定化が懸念される。任用職員制度への移行の理由と概要について問う。

A 地方公務員法における守秘義務等のサービスの適用や期末・退職手当の支給についても規定された臨時・嘱託職員の処遇改善や勤務条件を確保するために行われた。地方公務員法改正により、任用形態の統一化を図るもので、令和2年4月に施行する。

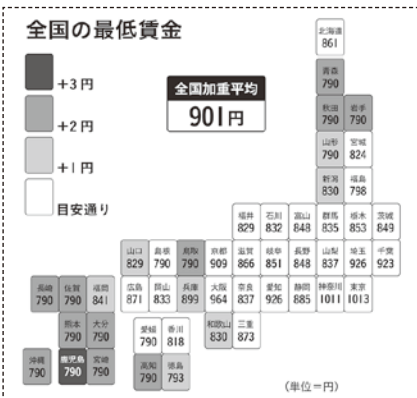
◆ 小松基地でのF35A戦闘機の試験飛行について

Q F35A戦闘機の試験飛行とはどのようなことを行うのか、具体的な内容について問う。

A F35Aの国内製造において、1機当たり4回の飛行試験を実施。そのうち2回の飛行で計器着陸装置(LS)の機能確認を実施する。

Q F35A戦闘機は三沢基地で墜落し、米政府監査院(GAO)の報告書でも未解決の欠陥が指摘され危険であり、試験飛行の中止を国と基地に求めるべきと思う。

A 4月の飛行訓練時に発生した墜落事故を踏まえ、飛行を見合わせていたが、事故原因が究明され、再発防止策も行われるとして8月以降、順次飛行を再開している。



各都道府県の最低賃金時給額



梅田 利和(うめだとしかず)議員

一括質問

園児の集団移動経路における交通安全対策の実施

◆キッズゾーンの安全対策

Q 危険箇所の抽出について。

A 市内のこども園等、40園に対して自主点検を依頼。2割が危険箇所なし、4割は散歩ルートの変更などで対応ができ、残り4割について合同緊急点検を実施した。

Q 対策内容について。

A 合同緊急点検の結果、25件が市道に関するものであった。特に緊急を要する5件については、グリーンベルトやガードレールを市単独予算で設置する。

◆救急体制、地域医療の強化

Q 救急隊員ワークステーション設置について。

A 救急隊員の教育拠点を市民病院に設置。救急隊員は出勤態勢を維持したまま病院実習が可能となった。救急隊員と医療スタッフの連携強化が図られ、現場から病院まで円滑な救急活動を行え、地域医療の強化につながる。

◆公立小松大学

Q 設置者の小松市として、1年目の評価結果及び経営状況について。

A 文部科学省に6年間の中期計画を提出しており、総合的な全体評価においてランクAという高い評価をいただいた。9月から新しいコンバレー研修が始まり、交流ができていくことは大変ありがたい。駅周辺が学びのゾーンとして一つの教育産業ができていく。

◆小松市と大学とのパートナーシップ

Q これまでの各大学との連携、共創について。

A 現在6つの大学との包括協定を結んでいる。また、全国40の大学とも連携し、文化活動等、それぞれ得意とする大学の研究を市のために生かさせていただいている。

Q 日本大学芸術学部との連携プロジェクトについて。

A 包括協定のなかで日本大学芸術学部と交流した。夏休みに市立高校の芸術コースのメンバーと有意義な交流ができた。日大芸術学部長も市内を視察していただいた。



吉田 寛治(よしだかんじ)議員

一括質問

小松における複合型図書館の必要性について

Q 世界でも国内でも、複合的な図書館が主流である。本を借りたり読んだりするだけでなく、作品の展示、ダンスや音楽の練習スペース、話合いの場や子供たちも楽しめる工夫、カフェなど、子供からお年寄りなど誰もが楽しめて毎日通えるような図書館だ。県内にもそんな図書館がたくさんある。しかし、小松の既存の図書館は駐車場や設備など改善点が多く、誰もが楽しめるとはいえない。障がいを持った人などは使いづらいのが現実。小松市には他にも施設があるが目的が市民が毎日使えるというような施設は少ない。図書館が良くなれば市民の使用頻度も高く、コストパフォーマンスを考へても有意義だ。6月に市長は、南加賀の他の図書館も使えるという答えだったが、図書館は本を読み、借りる場所という認識ではないか。小松市に総合的な図書館を必要と考えるか否かをお答えいただきたい。

A 市全体として文化的な、また生涯学習的なものを配置していくかということが大切なことであ

る。いろんな集いの場所は、第一コミセン、芦城センター等のコミセンが各地に配置されている。市は市役所周辺を複合的な文化ゾーンとして位置づけてきた。そういう意味で建屋を1カ所につくっていくのか、公園という配置をその周辺の文化ゾーンとして位置づけていくかという課題もあり、どちらがいいのかというさまざまな意見もある。図書という一つの区切りも大事であるが、芸術・音楽・スポーツ等も見て、総合的にみてどうなのかをお考えいただきたい。来年は新たなビジョンの作成に入る。それを見ていただき、次の意見をいただきたい。市全体の文化を学び、小松らしいものは何なのかということもぜひお考えいただきたい。





竹田 良平(ただりょうへい)議員

一括質問

教育用タブレット・国道360号・五輪を契機とした外国との交流の3点

◆小中学校での教育用タブレットについて

Q 小松市の小中学校でのタブレットの配備状況は。

A 中学校で390台、小学校では432台を配備している。

Q タブレットで使用する教材について、熊本市では熊本県内の大学が開発に携わっている。小松市でも同様にできないか。

A 今年度、小学校4年生で実施するプログラミング教育の授業パッケージにおいて、大学等と連携して作成した。今後も協力を得て充実を図っていく。

◆国道360号(小松白川連絡道路)について

Q 今後の小松市としての携わり方については。

A 期成同盟会が結成されて30年が経過、国会議員が会長を務めていただける体制になった。国家事業を推進する体制ができ、経済・観光関係の方も期成同盟会に参加されることになり、一丸となった活動を進めていきたい。

◆東京五輪を契機とした小松市と海外の国々との交流について

Q 事前合宿の受け入れに際し、小松市としての支援体制は。

A 6月に立ち上げた小松市パラリンピック支援チームでは、医療機関等との連携はもとより、包括連携協定を結ぶ大学との連携、地元との良好な関係のもと、集中してトレーニングを行える環境を準備していく。ハード面ではユニバーサルデザイン化を図り、スロープ設置等、誰もが使いやすく、訪れやすいまちを推進している。

◆小松市のホストタウン登録数の見込み及び今後の海外の国々との交流予定は。

A ホストタウン8カ国のうち、イギリスとブラジルには姉妹都市があることから、これまでも高生の相互交流等が行われた。さらに、ニュージーランドやカナダとは公立小松大学が海外語学研修のために関係機関と連携が図られている。今後、さらに交流を推進していく。



東 浩一(ひがしこういち)議員

一括質問

里山エリア松東地区活性化に向けて

◆令和3年4月開学の松東みどり学園について

Q 教員体制、4つの学習スペースについて具体的に。

A 小中一貫校として県配置基準により、校長1人、教頭2人を配置。グローバルルームは図書館とICT環境を一体化させ情報を一括して収集し、考えを発信する学習が行われる。



松東みどり学園完成予想図

コミュニケーションルームはALTが常駐し英語力の向上を目指す。わくわくルームは松東地区の豊かな自然や文化、歴史に触れ学ぶ学習スペースとなる。アクティブルームは共同学習や合唱、意見発表などの学習発表、子供たちの憩いの場とする。

Q 里山エリアでの滞在型観光について、旧西尾小跡地のサトヤマアーツスタジオカレッジこまつ観音下の令和3年開業を控え、国道416号小松・勝山ルート活用など、

地域観光資源と連携した取り組みは。

A 大杉地区の江戸古民家を利用した宿泊施設など、体験プログラムの展開で首都圏・海外からの誘客を推進する。

◆農業振興について

Q 本市の主要農産物である米や、トマトの現状、農業振興への本市のお考えは。

A 米の消費量・価格は半減している。トマトは加工用や規格外品の商品開発で農産物の有効活用と商品価値を高め農業所得の向上に取り組んでいる。

◆ドライブレコーダー普及推進について

Q あおり運転や交通事故におけるドライレコ的重要性を認識する中、全国普及率31・7%であり、助成により普及推進を図れないか。

A 個人への公費による補助制度は現在考えていない。国等の動向を見ながら必要に応じて協議する。